

## 鉄道開業 150周年 直方駅のあゆみ



1872（明治5）年10月14日、日本ではじめての鉄道が開業し、新橋から横浜間を走りました。筑豊の鉄道開業は1891（明治24）年、若松～直方間の開通から始まります。石炭の採炭増加に追い付かなくなった遠賀川の水運に代わり、鉄道設置が急がれました。筑豊五郡の有力者たちが1888（明治21）年若松～直方～飯塚・金田間の鉄道開業の創立願書を政府に提出し、筑豊興業鉄道会社が直方に設立されました。初代直方駅は明治24年8月15日に開業、将来の複線化を予想し多賀神社横の御館山を削り、直方第一陸橋が造られました。当時の駅舎は現在の場所より多賀町に近い場所にありました。当時多賀町は旧長崎街道筋にあたり町屋も多く、官公庁街として栄えていたためです。

その後石炭輸送貨物が増加し続け、当初の直方駅では対応できなくなったため、1910（明治43）年に2代目直方駅が設立されました。明治41年から始まった遠賀川改修工事により北に市街が広がり、市制を目指しての街づくり計画の一端として現在の場所に移転しました。日の出橋へと延びる道路が造られて交通量も増え、学校や官公庁も移転新設され、直方駅は直方の中心となっていきます。ネオ・バロック様式で、エンタシスとよばれる古代ギリシア風柱を持つ車寄せのついた駅舎は改築を重ねつつ、長い間市民に親しまれてきましたが、老朽化により解体され、2011（平成23）年3代目駅舎が新設されました。



2020（令和2）年石炭で栄え、鉄道の町でもあった直方のシンボルとして、旧直方駅玄関の車寄せが駅前広場に復元移築されました。



「JR直方駅舎 記録保存調査報告書」  
直方市 N686 /  
「直方駅 80年のあゆみ」白木道雄他/編  
NL686 /

## 筑豊の民話 -明石千両-

江戸から明治時代にかけて、直方の植木には歌舞伎や踊りを得意とする、植木役者と呼ばれる人たちが住んでいました。直方付近のみならず、本場大阪まで興行に出かけていました。安永年間のころ明石という有名な役者がおり、関西で上方役者と合同出演をすることになりました。出し物は「妹背山婦女庭訓」で、芝居の中で明石が「女房、酒を買ってこい」と女房役の役者に言いました。この女房役の役者は上方でも有名な女形で、明石を田舎役者とあなどって、「酒とは、ささのことかいな」とセリフのないことを言いました。すると明石は「ところ風俗国言葉、こごとつかずにとっととうせろ」と、その役者を舞台から突き落としました。これを聞いた仲間の植木役者は、やんやと楽屋から明石を誉めました。そこから「植木役者を楽屋からほめる」という言葉ができるほど、大評判になりました。

「直方むかしばなし」上 刳 忠・舌間 信夫/著 直方市 N388 /



1972年7月24日、福岡県直方市に3兄弟の末っ子として生まれた彼は、小学生の頃から周りより一回りは大きかったものの引っ込み思案な性格の子どもでした。小学生で空手、中学校で柔道を習っていましたが、身体が大きいこともあり小学生の頃からしょっちゅう相撲大会に駆り出され、人前でお尻を出すのが恥ずかしく逃げ回っていたのに、出場すればほとんど優勝。中学3年生になると180センチを超え体重も110キロ、直方市相撲協会を通じて相撲部屋からの勧誘が頻繁にありました。

中学校卒業後に友綱部屋に入門し、1988年3月場所で初土俵。入門から3年半で十両昇進が決まり、幕下まで取っていた本名の古賀から、師匠・友綱親方の現役の四股名である魁輝より「魁」、頂点を極めてほしいと希望を込められた「皇」で『魁皇』が誕生するのです。

2000年に大関昇進以来、一度も関脇に陥落することなくその座を守り続けました。2011年7月場所で大関在位65場所目(史上1位タイ)を迎え、7日目には通算勝星史上単独1位となる1047勝を挙げ、10日目に引退しました。ケガに悩まされた24年間の現役生活で幕内優勝5回、殊勲賞10回、敢闘賞5回を獲得しました。

今秋、直方市教育委員会は大相撲の元力士を指導者に招き、小学生に相撲の楽しさを伝える「こども相撲教室」を開催します。直方市にはかつて土俵が常設であり、その相撲大会に自身も参加していた浅香山親方(元大関・魁皇)の要望を受け初めて企画されました。浅香山親方は、教室の開催に「相撲の楽しさを存分に味わってもらいたい。楽しみにしています」とのメッセージを寄せています。

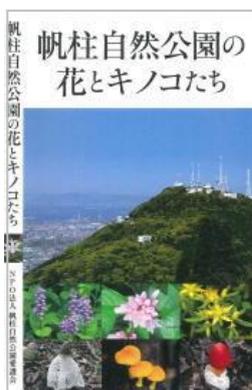
「怪力 魁皇博之自伝」N788ノ 「嫌いなことでも好きになれる。」N788ノ  
「西日本新聞 2022.08.31 朝刊号」「朝日新聞 2022.09.01 朝刊号」記事より

## はじめの一步 ~郷土資料の紹介~

直方市立図書館にある郷土関係の本を紹介していきます。  
郷土の歴史や文化に興味をもってください。きっかけになればと思っています。

### 『帆柱自然公園の花とキノコたち』

NPO 法人帆柱自然公園愛護会ハンドブック制作委員会 // 著 N472キ



『日本書紀』に記載があるなど歴史のある皿倉山。野草やキノコが豊富で、昭和32年に国定公園(帆柱自然公園)の指定を受けるなど今まで環境が保護されています。

今回ご紹介するのは、NPO 法人帆柱自然公園愛護会の発足45周年を記念し出版された、花とキノコのガイドブックで、帆柱山系に自生する花230種、キノコ66種を紹介しています。花やキノコの図鑑は数多くありますが、その山で見つけられるものだけをまとめているのは山の愛護会制作ならではの、小さな秋を見つけに、ガイドブック片手に直方から少し足をのばしてみるのはいかがでしょうか。

直方市立図書館 直方市山部 301-11 コミュニティのおがた内  
TEL 0949-25-2240 FAX 0949-23-3902